

特集 7

# 皮膚科サマースクール in Kobuchizawa2018を終えて

一昨年、昨年と大好評であった皮膚科サマースクールが、今年も去る7月15日(日)、7月16日(月)に山梨県の小淵沢アートビレッジで開催されました。本企画は医学生や初期研修医に皮膚科学の真髄と楽しさを伝え、将来の進路の一つとして皮膚科を考える契機となることを期待して実施されてきました。今回から



晴天！集合写真

気温のなかでの開催となりました。当スクールの特徴の一つとして「皮膚科専門医もうらやむ豪華キャスト」がありますが、今年も例外ではなく、天谷雅行理事長、青山裕美キヤリア支援委員会委員長、そして本企画のfounderである島田眞路前理事長をはじめやる気満々の実行委員、講師陣、皮膚外科テューター、今や本

対象を初期研修医に限定しての開催となりましたが縫合実習などでレベルが揃い、また参加者同士の交流もしやすくなり、運営側と受講側両方にとって良かったのではないかと思います。

今年には特に各地で猛暑が続き、さわやかな高原の涼しさを期待して現地向かいました。が、残念なことに今年の暑さは全国的なよう東京とさして変わらない

二日目はおそろいのJDAスクラブで集合。皮膚縫合実習メインの構成でした。縫いにくい豚皮での実習ですが百戦錬磨の皮膚外科テューターの指導のお



皮膚縫合実習

スクールの運営のプロとなった事務局、コンベンションの方々が会場に集結し、参加者を待ち受けました。はじめは馴染めない様子であった参加者も自己紹介、座学、ダーモスコピー実習と企画が進行するにつれて打ち解けはじめ、今やサマースクール名物となった安部正敏先生による症例レクチャーとクイズダービー形式のコンペティションでは大いに盛り上がり、そのテンションのまま懇親会、受賞式へ。島田眞路前理事長が差し入れてくださった山梨の美味しいフルーツ、山梨大学のワインなどの相乗効果もあって記憶に残る素敵な夜となりました。

かけがえなく真皮縫合、皮弁形成術をこなしていただきました。その後の座学では皮膚科の専門医制度、医のキャリア形成、研究の面白さなどが語られ、理事長、キヤリア支援委員会委員長、実行委員長の手書きのサイン入り修了証を一人一人手渡ししてお開きとなりました。

第一回は参加初期研修医45名中30名、第二回は48名中20名が皮膚科の後期研修に進んだとのこと。今回の参加者からも一人でも多くの方が皮膚科医となり活躍してくれることを願っています。募集人数増員の要望もある

ことから次なる開催場所を検討中ではありますが、来年も7月14日から15日の日程で皮膚科サマースクール2019を開催する予定です。皮膚科に興味をもつ初期研修医の皆様をぜひご推薦いただければと存じます。

スタッフ(敬称略、五十音順)

講師・タスクフォース…

安部正敏、石河 晃岸 晶子、田中 勝、玉井克人、千貴祐子、常深祐一郎、中村泰大

皮膚外科テューター…

浅井 純、大沼毅紘、小澤俊幸、加藤裕史、佐藤洋平、田中隆光、中井康雄、光榮文生

実行委員…

大山 学(委員長、高山かおる、多田弥生、鶴田大輔、蓮沼直子、山中恵一)

執筆者

大山 学  
皮膚科サマースクール2018実行委員長  
杏林大学医学部皮膚科学教室教授

